

咽喉頭胃酸逆流症と思われる 症例の内視鏡所見

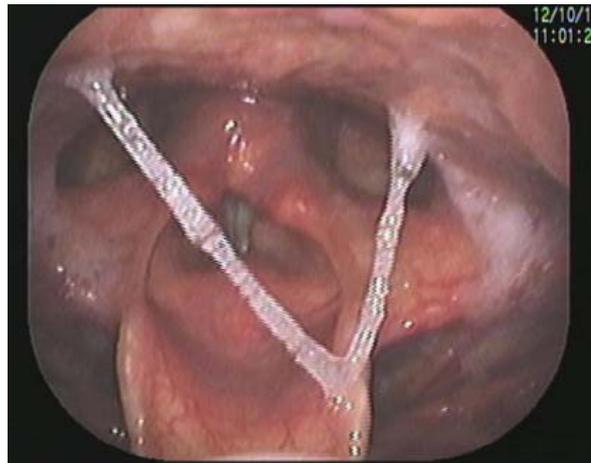
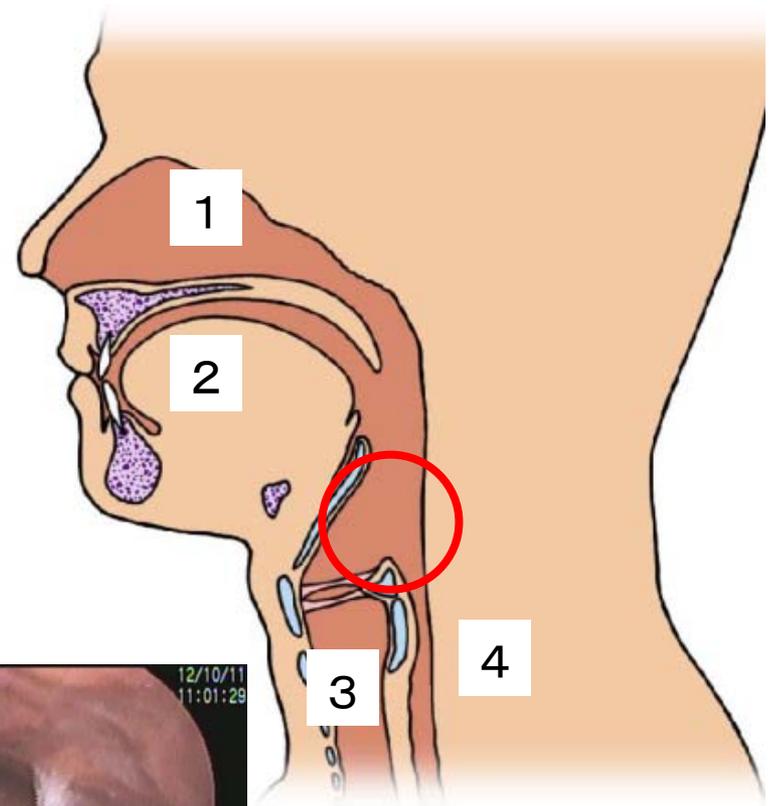
おひさま耳鼻咽喉科
五十嵐 良和

日常診療 で よくある愁訴

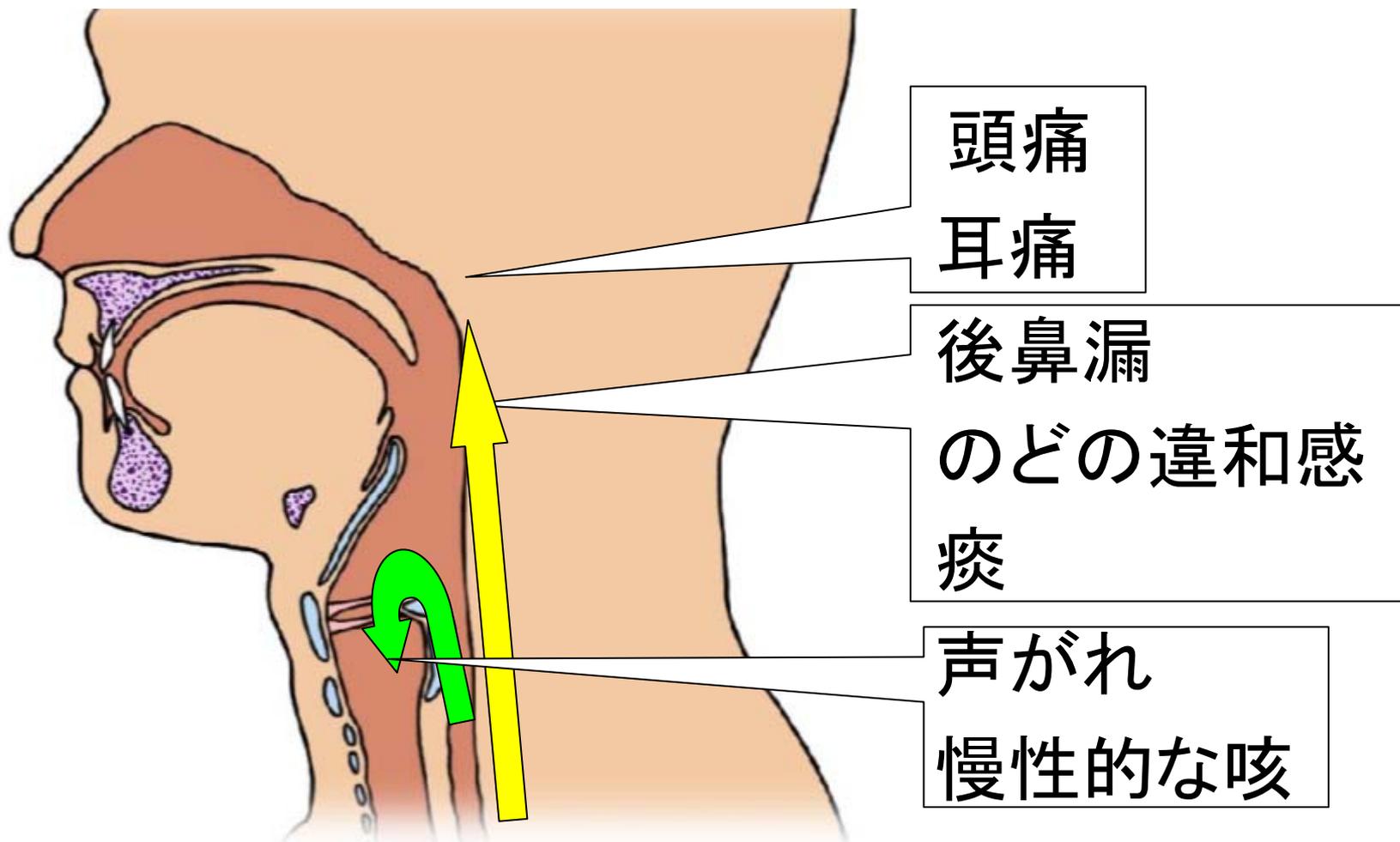
- のどに鼻水が落ちる感じが続く
(蓄膿の治療をうけても改善しない)
- 咳と痰が続く
(内科で治療を受けたが改善しない)
- のどの違和感がある
(診察をうけて何も無いと言われた)

のどの痰はどこから？

- 1 鼻から
- 2 口から
- 3 気管から
- 4 胃食道からの逆流も？



咽喉頭酸逆流症 という考えかた (Laryngopharyngeal reflux disease LPRD)



胃酸逆流症 (GERD) の食道外 非定型症状

総 説

曾根三千彦

名古屋大学大学院
医学系研究科
頭頸部・感覚器外科学
耳鼻咽喉科

日耳鼻 114: 114-120, 2011

「第111回日本耳鼻咽喉科学会総会ランチオンセミナー」

GERD と耳鼻咽喉科疾患

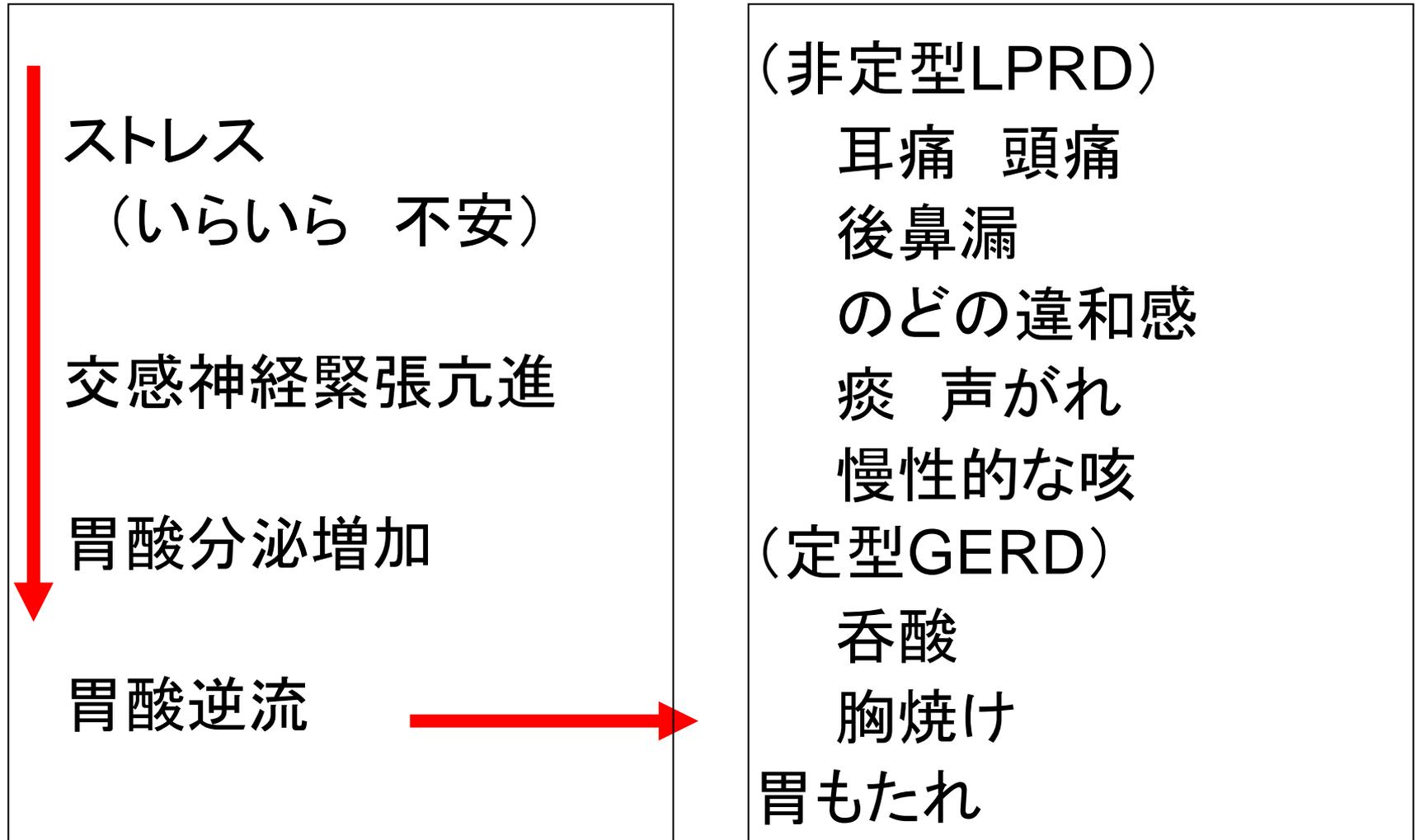
—中耳にまで達する十二指腸胃液逆流—

近年胃食道逆流症 (gastroesophageal reflux disease: GERD) の増加が指摘されている本邦において、逆流が関与した耳鼻咽喉科領域の疾患—咽喉頭酸逆流症 (Laryngopharyngeal reflux disease: LPRD)—も増加傾向にある。逆流は咽喉頭に留まらず、鼻副鼻腔から上咽頭さらには耳管から中耳腔にまで達し、十二指腸内容物の逆流が関与した症例も認められている。GERD は胃内容物の逆流によって不快な症状や合併症を起こした状態と定義されており、食道外症候群として喉頭炎・咽頭炎・副鼻腔炎・中耳炎が耳鼻咽喉科領域の疾患に含まれている。過去の論文の評価から喉頭炎のみが GERD との関連性を確認され、他の疾患との関連性については推測段階に留まっており、咽喉頭炎や自覚症状に対するプロトンポンプ阻害剤の効果も確定はしていない。日本消化器病学会から発刊された GERD 診療ガイドラインでは、上記疾患に加えて閉塞性睡眠時無呼吸症候群の原因の一つとして GERD を挙げている。LPRD 患者の生活の質 (QOL) は多方面にわたって低下しており、局所所見よりも臨床症状と強く相関する傾向がある。GERD と同様に LPRD の治療では、症状のコントロールと QOL の改善が目標である。そのためには耳鼻咽喉科医の的確な診断と治療が必要であり、LPRD の診療ガイドラインの作成も望まれる。

胃酸逆流症とは

- 胃内容物の逆流によって不快な症状や合併症を起こした状態
- 本邦で胃食道逆流症 (Gastroesophageal reflux disease: GERD) の増加が指摘されている
- 逆流が関与した耳鼻咽喉科領域の疾患—咽喉頭酸逆流症 (Laryngopharyngeal reflux disease: LPRD)—も増加傾向にあるとされる

患者さんに説明している胃酸逆流症の 推定機序 症状



胃酸逆流症の診断 と 耳鼻科での課題

症状 定型症状(胸焼け呑酸)があれば可能性大
食道外の非定型症状だけでは
胃酸逆流症か否かの判断が難しい

検査

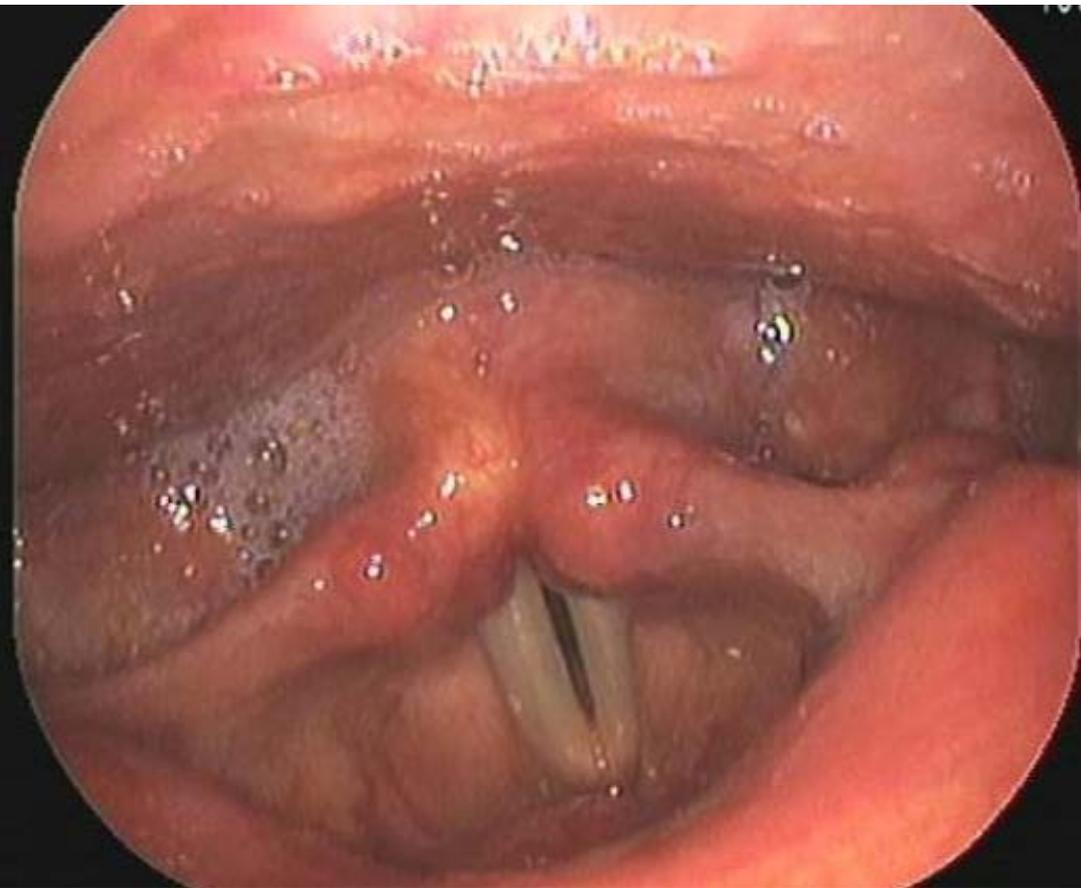
- 1 24時間pHモニタリング(特殊) 耳鼻科では困難
- 2 PPIテスト(簡単)
プロトンポンプ阻害剤(PPI)を試験的に投与
症状が改善すれば胃酸逆流症と診断
- 3 内視鏡検査
食道炎の確認が中心
耳鼻科領域の評価基準は未 → 今回検討

胃酸逆流症が疑われる症例に対して 当院で おこなっていること

- 1 定型症状(呑酸 胸焼け)や胃もたれの有無を確認
- 2 胃酸逆流の影響を示唆する内視鏡所見がないかどうかを確認
- 3 ラベプラゾール2週間処方(PPIテスト)
- 4 効果不十分な場合 漢方など追加

胃酸逆流の影響を
示唆すると思われる
内視鏡所見

胃酸逆流 と 下咽頭喉頭所見 (軽度:もっともよく認める)



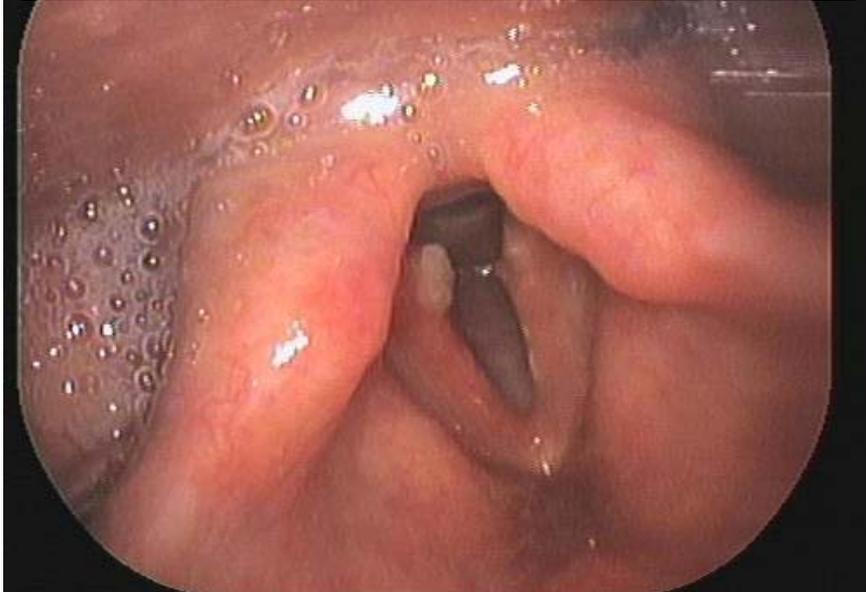
咽頭後壁の透明な痰
下咽頭の透明な痰貯留
披裂部粘膜の発赤
声門後部の発赤

この所見が 胃酸逆流によるものか否か
意見の相違があると思われる

胃酸逆流 と 下咽頭喉頭所見 (中等度以上)



下咽頭からあふれた痰の
声門への落下

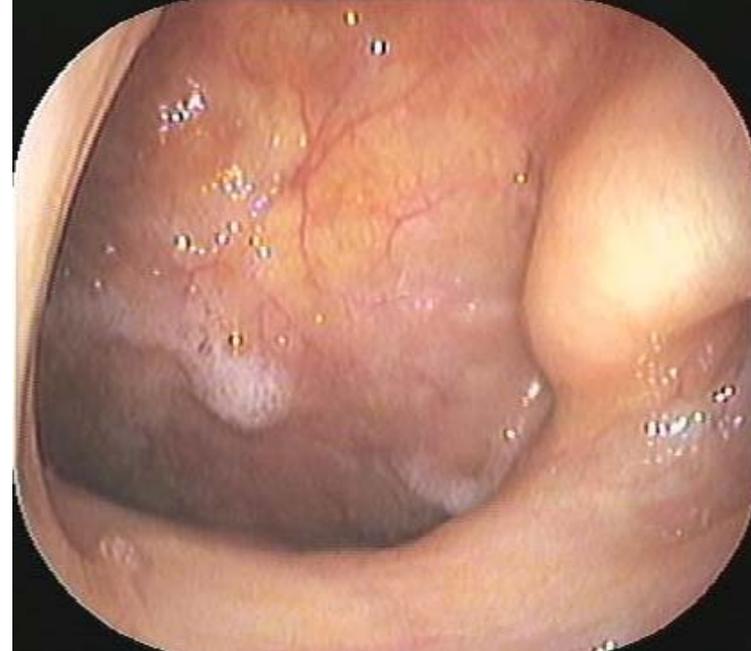
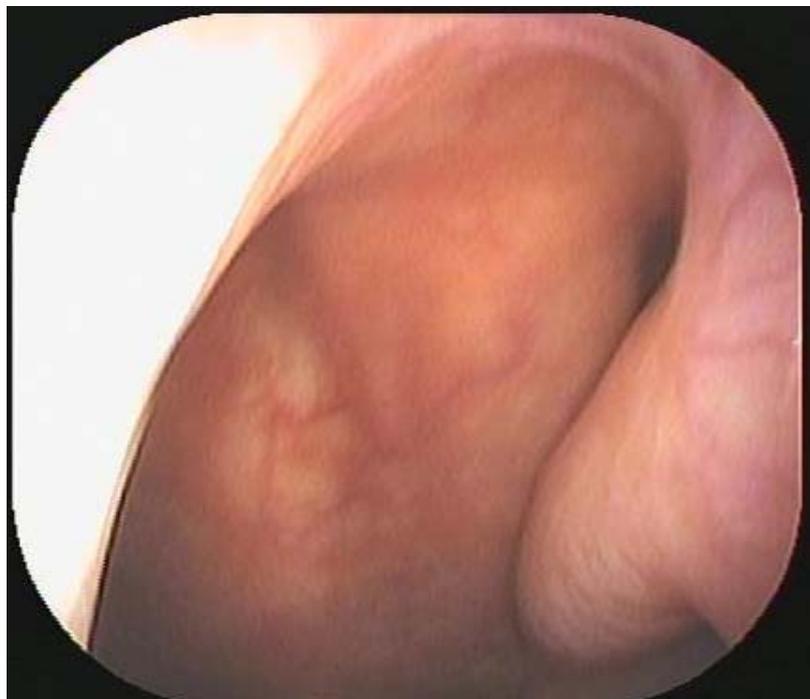


声門後部に肉芽腫形成

これに関して
意見の相違はないと思われる

胃酸逆流と上咽頭所見

軽度 上咽頭粘膜の発赤

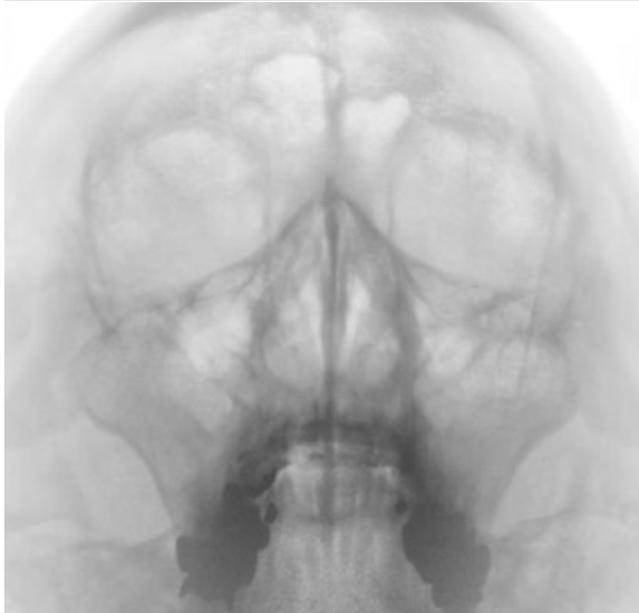


中等度～高度
透明または白色の痰付着

鼻疾患を否定するため
鼻腔粘膜が正常 かつ
鼻腔からの後鼻漏を認めないこと
が絶対条件



鑑別すべき 鼻性後鼻漏



鼻腔から後鼻孔へ
連続する膿性後鼻漏

レントゲンでも
副鼻腔炎を確認

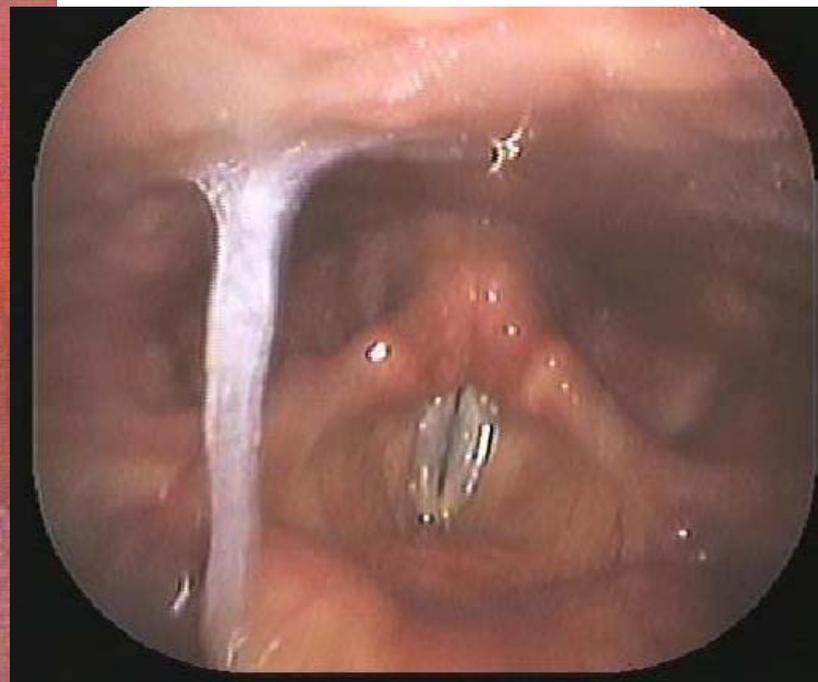
胃酸逆流が示唆されるが
現時点で疑問段階の症例

慢性扁桃炎(扁桃の白いブツ)にも関与？

59才女性

約一ヶ月前から のど右側の違和感 ブツ

同じ頃から 胃酸逆流 胃もたれの自覚あり



耳痛←上咽頭炎←胃酸逆流??



40歳 女性

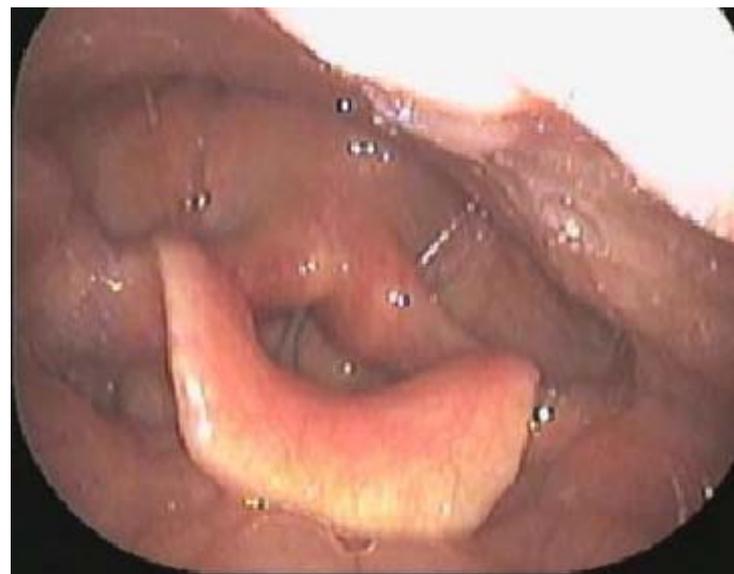
前日から

右耳のさされるような痛み

外耳道鼓膜所見 良好

上咽頭粘膜に発赤

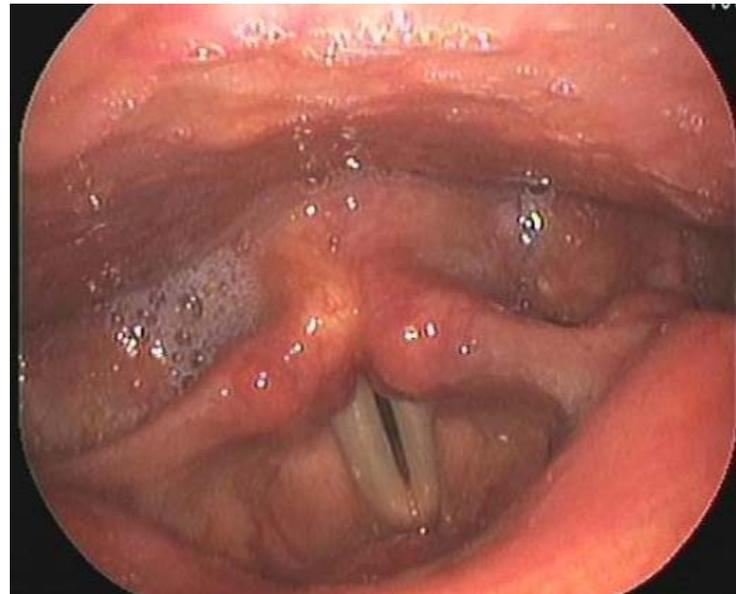
咽頭後壁に透明な痰



こんな方にPPIを処方しています

後鼻漏 のどの違和感 咳・痰が続く

(他院で上・下気道炎の治療を受けたが改善しない)



話しをよくうかがうと 胃酸逆流の症状はないが
胃が弱い 胃酸が多いと指摘されたこともある

胃酸逆流の可能性が高いが
PPIでコントロール出来ない場合は？

漢方

◎半夏瀉心湯 胃腸の働きを改善

口内炎に有用

神経症にも適応

○半夏厚朴湯 咽喉頭異常感症の定番

○柴胡加竜骨牡蠣湯

交感神経緊張ぎみのかたに

トランキライザー

胃酸逆流症を示唆する病歴

唾液減少 口腔内乾燥の自覚

(相対的な胃酸逆流増加?)

起床時に自覚 (寝ている間の逆流?)

食後に自覚 (消化のため胃酸分泌増加)

過去に

胃が弱い、胃酸が多いと指摘されたことがある

まとめ

- 従来 慢性咽喉頭炎、咽喉頭異常感症、耳鼻のどの不定愁訴と診断されていた症例に胃酸逆流症が隠れている可能性があります。
- 今回の発表内容が、今後の診療の参考になれば幸いです。